

		令和4年度 西東京市立ひばりが丘中学校 学校評価			5：達成率90%以上 4：達成率80%以上 3：達成率60%以上 2：達成率40%以上 1：達成率40%未満		
学校教育目標		広く国際社会を創造性豊かに、たくましく生きる人をめざして ・自ら学ぶ ・豊かな心 ・夢の実現					
目指す学校像	【目指す学校像】	「地域、保護者の期待に応える学校」●生徒の力を伸ばし、一人一人が主役となる学校●生徒、保護者、地域から信頼を寄せられる学校●組織力が強く、柔軟な対応力や確実な実行力のある学校					
	【目指す生徒像】	「知・徳・体のバランスがとれた生徒」●授業を大切にし、自ら考え主体的に学ぶ生徒 ●豊かな心を育み、夢の実現を目指して未来を切り拓く生徒 ●健康と体力増進に自ら努める生徒					
	【目指す教師像】	「高い人権意識と実践的指導力をもつ教師」●人権意識を高くもち、『西東京あったか先生』を実践し体罰その他の服務事故ゼロに全力で取り組む教師●学習指導力、生活指導・進路指導力、組織貢献力、外部との県警折衝力をバランスよく高め学び続ける教師●共に高め合い学び続ける教師●働き方改革を実践し豊かな生き方を示すことができる教師					
本校の実態と課題		○昨年度は「主体的に学習に取り組む態度を効果的にはぐくむ」をテーマにGIGAスクール構想により一人1台配布されたタブレットを使用し、ICTを活用した授業改善に取り組んだ。その結果、教員たちのICT活用能力が向上し、オンライン授業においても学びを止めることなく、生徒たちに授業を提供することができた。今年度は、ICTを活用した授業について生徒の意見や感想を取り入れながら、さらに効果的な指導を研究授業で検証する。また、話し合い活動では、教科、領域全ての話し合い活動を全て「ひばりスタンダード」で行う。さらに、西東京市の特別支援教育の理念を実現する特別支援学級を開級し、本校の特別支援教育の充実につなげる。通常学級と特別支援学級の教員の強力な連携で、生徒を一人も取り残さないあたたかな学校づくりの強みとする。					
具体的方策		取組指標 (教員)	成果指標 (生徒)	成果指標 (保護者)	学校の取組及び改善策	学校関係者評価記入欄	
自ら学ぶ力の育成	ねらいを明確にし、主体的に課題に取り組み、振り返って次につなげるという「西東京スタンダード」の授業に対して、前向きに取り組む生徒を育てる。	5	5	3	「西東京スタンダード」の実践については、すべての教員が意識して授業を行っている。日常の授業においても、生徒が興味をもてる『ねらい』の提示の仕方を工夫したり、振り返りで本時の内容を確認させたりして、時間単位で身に付ける力を明確にしている。その結果、生徒は「授業はわかりやすいか」「授業のねらいや目標がわかりやすいか」「先生はわかりやすい授業を進めるための工夫をしているか」という質問に高い評価を下している。	授業を参観した結果、先生たちの工夫したスタイルにより生徒たちは、いろいろなバリエーションの授業を受けることができていると感じた。保護者に対しては、授業参観で「見るポイント」などを示すことにより、学校の取組を伝えることができる。	
	授業で記録する・要約する・説明する・論述する場面をより多く設定し、自分の考えをまとめる活動や話し合い活動を通して、主体的に学ぶ機会をもたせる。	5	4	3	昨年度より国語科で取り入れている話し合い活動における「ひばりスタンダード」であるが、今年度は4月に研修を行い、教科横断的にすべての教科で実践することに取り組んだ。既に全国学力学習状況調査では肯定意見が全国平均より9ポイント、東京都平均より8ポイント高い評価が出ているが、学活や道徳の場面でも、建設的に意見交換をする場面が多くみられるようになってきている。	「ひばりスタンダード」については、説明を聞いて大変すばらしいと感じた。また、生徒たちも前向きに議論している様子を感じられた。このような取組を保護者に伝えるためには、一見して内容がわかるイラストやマンガなどを生徒の手によって作るよよい。	
	効果的なICT機器の活用を進め、授業での教材の提示、調べ学習、思考過程の可視化、発表や発信、及び家庭学習を充実させる。	5	4		昨年度より導入された一人1台のタブレットだが、手探り状態であった昨年度に比べ、今年度はデジタル教科書を含め、より活用の幅が広がった。また、「効果的な活用」の仕方について研修を行ったり、全員の研究授業に取り組んだ。その結果「授業内でICTを効果的に活用しているか」という質問に対しては、肯定意見が大半を占めているが、タブレットの活用の幅が広がるにつれて、特別教室棟のWifi環境の脆弱さが問題となっている。	教員たちのICT活用力は向上していると聞いている。そのような中で、教員の指標が5であるのに対して、生徒の指標は4になっているので完全に十分とはいえない。今後は、特別教室におけるWifi環境の充実を進めてもらいたい。	
豊かな心の育成	道徳授業の充実により、自己を大切にし、他者を尊重し合う豊かな心を育てる。	5	5	4	「道徳の授業を通して、自分の心を成長させ『豊かな心』の育成を図っているか」という質問に対しては、保護者の85%が肯定的な意見をもっており、生徒の95%が思いやりの心をもって生活を送っている。また、学校運営協議会において、道徳授業地区公開講座を参観していただいたときも「50分という短い中で、つかみがあり構成を立てて、クオリティの高さを感じる」と高い評価を受けている。また、特別支援学級の移動教室に際して通常学級の生徒が気に掛ける様子を見せるなど、今後つながりの絆を深めていきたい。	道徳の授業については、道徳授業地区公開講座を参観したときに、「先生たちが一つの授業に対する準備がよくできている」「それぞれのクラスに合わせた授業が展開されている」と感じた。それらが豊かな心の育成につながっている。	
	学校行事や生徒会活動、部活動などの諸活動を通して、学級・学年への所属感や自己有用感を育てる。	5	5	4	「行事・学級活動・道徳の授業などを通じて、自分の心を成長させることができている」と答える生徒の割合が93%となっている。また、3年生の面接練習においては、心に残った出来事として「運動会」や「合唱祭」をあげる生徒がほとんどであり、達成感や充実感がよく伝わってくる。また、これらの行事に対する保護者の評価も非常に高い。さらに、調査の結果「自分によいところがある」と答えた生徒が80%を超えている。	中学生で「自分によいところがある」という肯定意見をもつことは、なかなか難しい面もあるが、一人一人に目を配り、良いところを見つけて「ほめる」という学校全体の取組が、このような結果につながっていることがわかった。	
	いじめられたり、無視されたりすることなく安心して学校生活を送れるように、教員間で生徒情報の共有を積極的に行い、いじめ防止に努める。	5	5	3	すべての教員が「生徒情報の共有を積極的に行っている」と意識しており、日頃から『報連相確』を徹底して、いじめの防止、早期発見、早期解決に学校をあげて取り組んでいる。その結果、「いじめられたり、無視されたりすることなく、安心して活動できている」と答える生徒は98%にのぼっている。	この学校で、生徒たちが安心して生活を送っていることがよくわかる数字だ。ただ、学校に来るのが難しい生徒たちへの対応については、より一層家庭と連携を取り合い、「学校に登校しなくてもつながっていける」「安心ができる」つながりを作っていくことが大切である。	
	挨拶や言葉遣い等のルールやマナーの大切さを伝え、規範意識を高めるとともに、よりよい生活習慣を身につける	5	5	4	機に応じて「自分で考えて行動する」指導を継続している。その結果生徒は97%、保護者は92%が「時間・挨拶・言葉遣いなど、集団のルールやマナーに気をつけて学校生活を送る」ことができていると回答している。また、移転して1年余りが経ち、最初は心配していた地域の方々からも、ひばり中生としての振る舞いに評価を得ている。	生徒は落ち着いて学校生活を送っている様子が見えるが、保護者の評価は4になっている。コロナで以前のように保護者会ができなくなってしまったので、横のつながりが希薄になり、情報が入って来にくくなっていることにも要因があるかもしれない。	
夢の実現	三年間を見通した進路指導計画により、生徒が自分及び自分の生き方に自信をもって進路を切り開いていけるように指導・支援する。	5	4	3	学校目標である「夢の実現」に向け、三年間を見通した進路指導に取り組んできた結果、生徒は中1の段階から「進路学習≠進学学習」ではないということを理解しているが、保護者への浸透が不十分な現状が見られる。今後もより進路学習について、学年通信やキャリアパスポートを活用して、取組の内容を積極的に発信していく必要がある。	進路が多岐にわたると同時に、進学に際しては複雑すぎて、英語スピーキングテストなど、先生や生徒は対応しているが、家庭は理解が難しくなっているようだ。より一層の啓発や連携が必要であると思われる。	
地域との連携	学校HP・学校便り・学年便りなどを通して、学校の教育内容や生徒の活動について積極的に発信し、理解と協力を得る。		5	5	毎日の学校HPの更新を通じて日々の取組の様子を、また、月1回の学校便りや、週に1度の学年便りでは、学校の考え方を積極的に発信してきた。その結果、生徒は95%、保護者は90%が好評価をしている。今後も、この取組を継続していくと同時に、保護者や地域の声にも、より一層耳を傾けていきたいと考える。	学校日より、学年通信、ホームページなどで、学校の取組はよく発信されている。ただ、忙しさから目に留めない保護者がいることも事実であり、今後は、上述のように、生徒の力を使って発信することで、保護者の興味関心はより高まると思われる。	
	部活動支援員や、学習支援員、SSSなど、外部の人材を活かしたり、経営支援部を充実させたりして、よりよい教育活動を展開するために、組織的に働き方改革に積極的に取り組む。	3	4	3	生徒と接する時間を増やしたり、自らをリフレッシュさせてよりよい教育活動を展開したりするために、働き方改革に積極的に取り組んでいる。そのような中、スタッフの活用により大きな成果を上げているが、同時に退勤時間を決め、業務内容の精選と仕事の効率化を図っている。	先生も3を付けているので、改善すべき喫緊の課題である。ただ、教育のレベルを下げることは許されず、取捨選択をしていくが必要になる。また、先生ではなくともできる仕事は外部にお願いするなど、他の学校の取組を参考にして進めていってほしい。	